

(公開学習Ⅱ) 小学校第6学年2組 道徳学習指導案

授業者 木原 一彰
小学校 6年2組教室

1 主題名 高い目標に向かって

2 資料名 日本女性 エベレストに立つ(みんなの道徳6年:学研)

(主として 1-(2) 努力に支えられた強い意志, 実行力)

3 授業構成

(1) 教師と教材

本題材は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられる。

第5学年及び6学年の内容

1 主として自分自身に関すること

(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

「指導計画の作成と内容の取り扱い」3

(3) 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

道徳的価値は人間が生きることに関わるものである以上、単に高い価値としてあらわれているというだけでなく、そこに込められた人間としての在り方や生き方、リアリティーが感じられるものである必要がある。そういった意味で、資料に描かれた人物の生き方に会い、それをひとつのモデルとして、自分の生き方と重ねながら考えることができる伝記資料の活用が重要であると考えます。

本資料では、世界で初めて、女性だけで世界最高峰であるエベレストに登頂した田部井淳子さんの生き方について学ぶ。周囲の人々の登頂への反対や資金面での多大な負担、登頂の準備段階で雪崩によってキャンプとともに生き埋めになるなどの困難にもかかわらず、エベレストへの登頂をあきらめなかった彼女の姿から、高い目標をもち、困難を克服することの大切さを感じることができると考える。また、最終的に隊のなかからシェルパとともにただ一人登頂することになった田部井さんの思いについて考えることで、彼女の不屈不屈の精神だけではなく、登頂を支えてくれた仲間たちへの感謝の思いなど多様な価値から生き方に迫ることができると考え、本主題を設定した。

なお、子どもたちがより多様に田部井さんの生き方を見つめ、考えることができるよう、複数主題による単元を構成した。

(2) 子どもと教師

本学級の児童は、これまでの道徳の学習において、話し合い活動を充実させることに主眼を置いてきた。そのなかで、資料の登場人物の思いを自分の生活経験から想像し、自分ならどのような心情になるかを考えながら話し合えるようになってきた。また、事前に題材として取り上げる人物について調べ、それぞれの子どもたちなりの人物観をもちながら学習を進めることにも取り組んでいる。事前の学習によって、自分なりの考えにこだわりをもち、資料の主人公の生き方について自分なりの見方で考えを深めていこうとする児童も増えてきた。

本時の主なねらいとする価値に関する児童の実態としては、日々の生活や活動のなかで、自分なりの夢や目標をもって取り組んでいる姿が見られる。しかし、一方で、卒業や進学が具体的なものとして見えてくるなかで、夢や目標よりも、目の前にある自分のこれからについて漠然とした不安を感じ

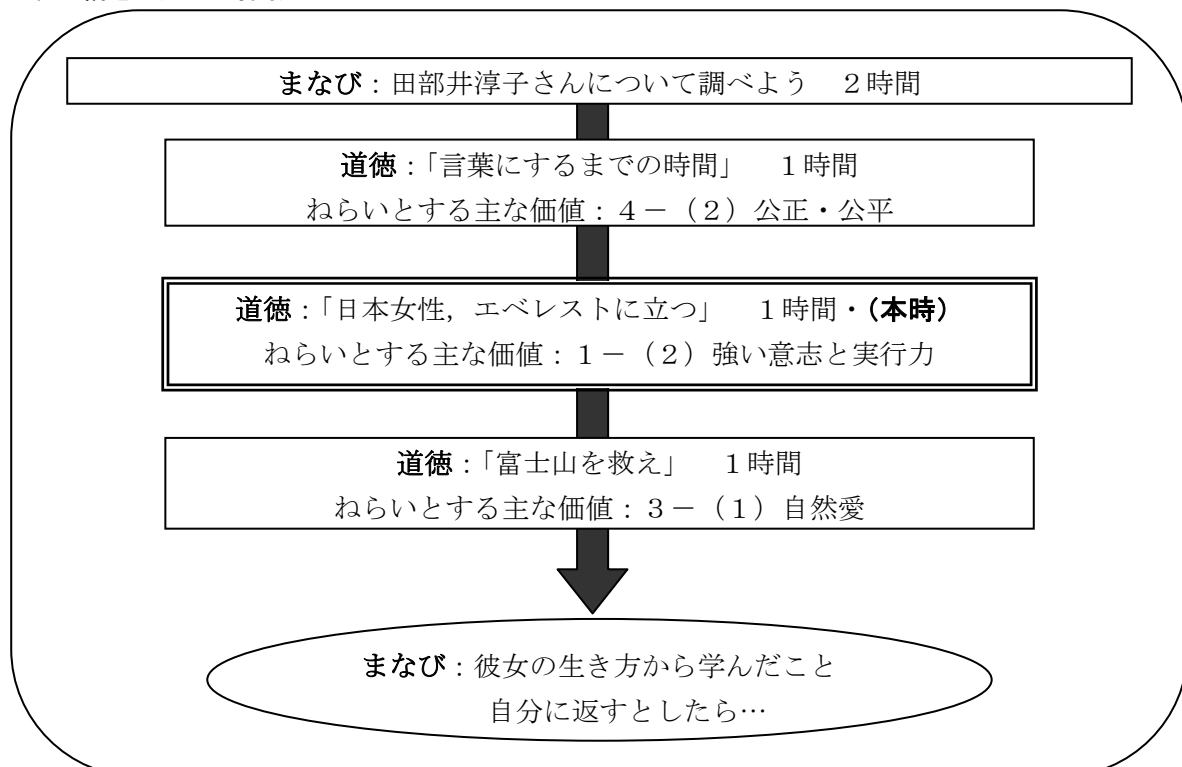
ている様子も見られる。この教材の学習によって、単に「努力」や「不撓不屈」という価値の知的理解を目的とするのではなく、それを支える感謝の心や、自分の個性を伸ばしていきたいという思いなど多様な諸価値のフィルターを通して田部井淳子さんの生き方を見つめ、自らの生き方に重ねることができるようになりたいと考える。そして彼女の生き方のすばらしさを感じ、自分を取り巻く社会のなかで、自分がどうありたいかについて考え、実践していこうとする意欲を高めていきたいと考える。

(3) 子どもと教材

田部井淳子さんの生き方への感動と話し合い活動の活性化を促すために、まず、子どもたち一人一人が田部井淳子さんについての事前学習を進めてきた。それぞれの子どもたちが調べ活動を行うことによって、学習のなかで、登山家としての彼女の思いや考えをもとにして話し合い活動を進めることができると思ったからである。主に、インターネットを利用して、田部井さんのホームページ等を視聴することを通して、その活動の様子や思いにふれさせた。また、調べたものを道徳ファイルに綴じて、必要な情報をいつでも確認できるようにした。

本時では、世界初の女性によるエベレスト登頂という偉業を成し遂げたときの田部井さんたちの登山隊の様子について資料を読む。そして、初発の感想を出し合う活動を通して、様々な困難に直面しながらも自分たちの目標を成し遂げようとする姿に共感させたい。そのなかで、子どもたちは、「なぜ、田部井さんたちは登頂をあきらめなかったのか」という部分に話し合いの中心を置くと考えられる。この問いに対して、エベレスト登頂をあきらめない心を支えているものは何かという視点を持たせながら考えていく。そうすることで、子どもたちは、様々な困難にも負けず、より高い目標に向かい意志を強くもって努力することの意味について、田部井さんの生き方に沿いながら多様に考えることができる。田部井さんを支えた思いは、「仲間との協力やそれに対する感謝」「自分の目標への飽くなき挑戦の意志」「登山隊を代表しているという責任感」など多様に考えられる。話し合い活動によって、これらの視点を明らかにしていきながら学習を深めるとともに、子どもたちがこだわった視点をもとにして今の自分を語れるようにしたい。そうすることで、本時で学んだ生き方を自分の生き方に返していくことができると考える。

4 単元構想（全6時間）



5 本時の学習

(1) 本時の目標

女性初のエベレスト登頂を達成するために、様々な困難を克服した田部井淳子さんの生き方に迫る話し合い活動を通して、高い目標に向かって努力する田部井さんの姿に共感するとともに、彼女を支えていた思いについて自らの視点をもって考えることができる。

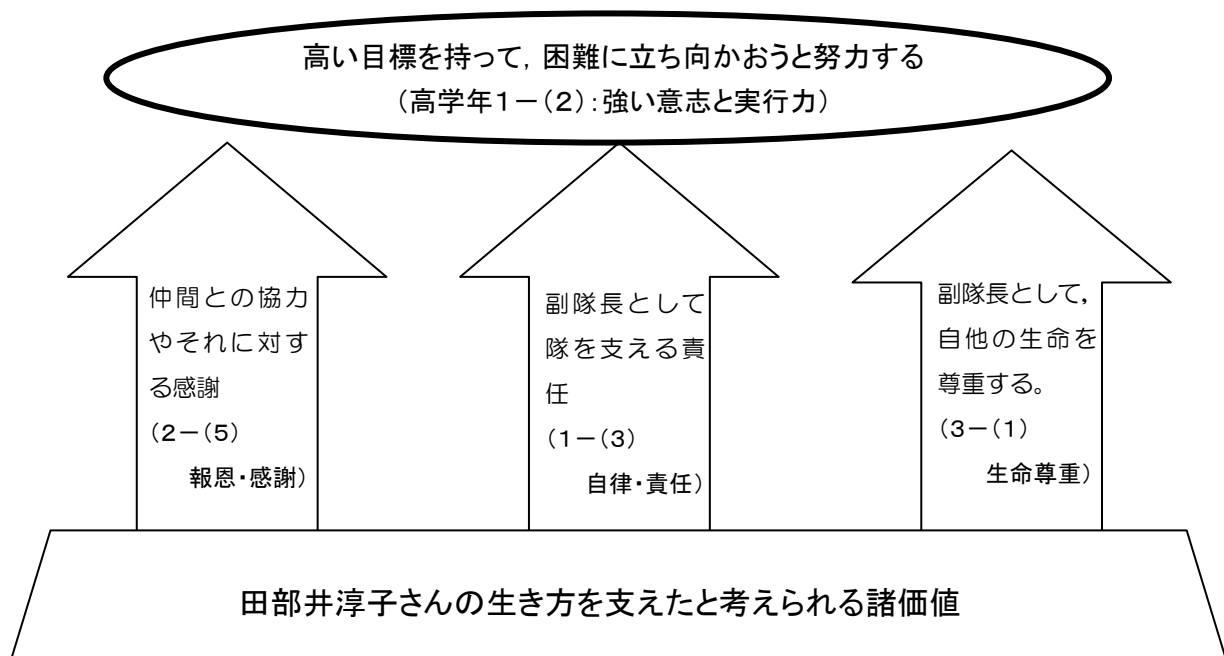
(2) 期待される児童の様相

A…高い目標に向かって努力する田部井淳子さんの生き方を支えた思いについて自分なりの視点をもって考え、自分はどうかについて考えることができる。

B…高い目標に向かって努力する田部井淳子さんの生き方を支えた思いについて考えることができる。

C…高い目標に向かって努力する田部井淳子さんの生き方に共感できる。

(3) 本時の学習における価値の構造



(4) 準備

資料「日本女性、エベレストに立つ」、道徳ファイル、提示用写真、ワークシート

(5) 本時の展開

(◇: 全体への支援 ◆: 個への支援 ○: 教師の意図)

学習過程	主な発問と児童の反応	教師の支援・意図
1, 感想の分析	○資料「日本女性、エベレストに立つ」を読んで各自が感想をもつ。	○資料の内容を正しく共感的に把握させる。
2, 問題の焦点化・共通化	○資料の主人公の生き方に対して、どんな感想をもったか。 ・登山キャンプが雪崩にあったのに、あきらめず、登頂を目指した意志の強さ ・女性だけで登山隊を編成して世界初の女性登頂者になったことのすばらしさ	○田部井淳子さんのエベレスト登頂にかかる姿や女性だけの登山隊であったという部分に感想や問題意識をもつ児童が多いと考えられるので、問題をその部分に焦点化していきたい。

田部井淳子さんの生き方を支えた思いについて、話し合い活動を通して迫ろう		
3, 問題の明確化・追究	◎なぜ、田部井さんたちはエベレストへの登頂をあきらめなかったのだろう。田部井さんたちを支えていたのはどのような思いだったのだろう。 ・どんなことがあっても、エベレストへの登頂を成功させたい (意志・努力) ・登山隊の副隊長として、みんなの夢をかなえる責任がある (自律・責任) ・今まで心配をかけた家族や周りの人への感謝とエベレスト登頂によってその恩に報いたい (報恩・感謝) ・副隊長として、隊員の生命の安全を考えて決断しなくてはならない (生命尊重)	○田部井さんのエベレスト登頂に対する思いを、話し合い活動を通して感じ取ることができるようにする。 ○田部井さんの強い意志を支えていたものが責任感、報恩感謝など様々な諸価値であることについて、子どもたちの話し合いをもとに迫らせたい。 ◆子どもたち一人ひとりが、自分がこだわりたい価値観について語ることができるよう話し合いのなかで簡単に類型化する。 ◇副隊長として隊員の安全も考えなくてはならないという視点からも考えられるよう補助発問を行う。
4, 価値の選択・決断・主体化	○田部井さんが、エベレストの頂上に立ったとき、彼女の心を満たしたのはどんな思いだっただろう。 ・(意志・努力) あきらめずにがんばって良かった。長い間苦労したことが報われた。 →努力をすれば夢は叶う。 ・(自律・責任) 女性だけの隊を代表してなんとか登頂を成功させることができて良かった。 →自分の責任を果たすことが大切だ。 ・(報恩・感謝) 今まで支えてくれた人々やキャンプの仲間たちのおかげで登頂できたことに感謝したい。 →仲間との協力が大きな力になる。 ・(生命尊重) だれもが無事にこの登頂に関わることができたことに安心した。 →隊員の安全があったからこそ喜びだ。	○田部井さんが登頂した際に彼女の心のより大きな部分を占めていたものが何かを考えさせることで、田部井さんの生き方のなかで自分が一番大切だと考えていることを明らかにする。 そして、自分の生活において田部井さんの生き方から学んで生かすことができることは何かを考えさせる。 ◇ワークシートに簡単に記入し、そのあとでそれぞれの思いを語らせる。 ◇より多様な考え方にふれさせる機会とするために、それぞれの子どもたちがこだわって考えたことについて挙手による指名だけでなく、意図的指名も取り入れる。
5, 本時で学んだことの確認		○教師の説話により、学習のまとめとする。

(参考文献等)

- ・ 「道徳・特別活動重要用語300の基礎知識」押谷由夫・宮川八岐編集 明治図書
- ・ 「道徳教育とは何だろうか」横山利弘著 暁教育図書
- ・ 「道徳教育、画餅からの脱却」横山利弘著 暁教育図書
- ・ 「道徳教育入門〈その授業を中心として〉」日本道徳教育学会編 教育開発研究所